令和７年度

芝久保小学校　４年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

西東京ふるさと探究学習

単元名：
（活動名）
だれもがくらしやすい町を目指して
（みんながくらしやすい社会を考えよう）（わたしたちにできることを実践しよう）

ねらい：
・様々な方との交流や体験活動を通して、感じ方や考え方などを理解し、その人の立場に立って考えることができるようにする。
・様々な人が社会で暮らしていることを知り、共に暮らしていくために、自分たちにできることを考え、実践しようとする意欲を高める。

【９月５日】

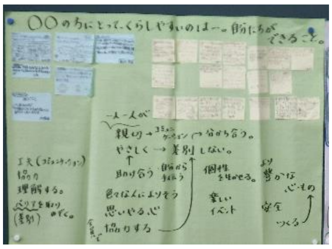
自分たちが住む「町」は、「自分たちにとって、くらしやすいのか？」「くらしやすいとは何か？」を考えました。

次に、町にはどんな人が住んでいるのか考えを出し合いました。自分たちにとってくらしやすい町が、「『誰にとっても』くらしやすい町なのか」を課題として設定しました。

【９月２６日、１０月１０日、１０月３０日、１１月１０日】

目の不自由な方や耳の不自由な方から、生活する時に大変なことや工夫していることなどを聞きました。

また、認知症の方を支援する人や地域の福祉に携わっている方の話も聞きました。障害や認知症を身近なこととして感じるとともに、自分たちにできることが多くあることを知りました。



【１１月２７日、２８日】

交流・体験を通して学んだことや聞いたことをまとめ、「だれもがくらしやすい町」について改めて考えました。さらに調べたいことを個人やグループで決め、交流のメモや、本・インターネットを使って調べたり、再度インタビューをしたりしました。

【１月２４日】

学校公開で、保護者や地域の方に、個人やグループでまとめたことを発表しました。クイズや劇などを取り入れ、工夫して伝えることができました。また、「だれもがくらしやすい町を目指して」自分は何をしていきたいのかを全員が発表することができました。

まとめコラム

交流や体験を通して、子どもたちは、自分が暮らす町には、様々な人がいることに気付くことができました。そして、様々な人がくらしやすくなるための環境の工夫が多くあり、支援をする人も身近にいることを知りました。

学習を通して、障害は「大変なこと」というイメージから、その人自身の生きる力強さや魅力があることや、自分たちと同じ悩みや喜びがあることを感じていました。さらに、「だれもがくらしやすい町」とは、障害や病気、年齢などに関わらず、「自分たちにとってもくらしやすい町」と改めて考えることができました。障害や病気に対して正しい理解をし、差別なく接することや、自分たちにできることをすすんでしていこうという気持ちをもつことができました。（４年担任）